

# GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT  
\*2022\*  
Summer

神秘のオーロラ

夏にひんやり

第二特集

世界のクールデザート

# 一生に一度はオーロラを見てみたい 極北のオーロラ クルーズ



世界にはさまざまな絶景や秘境がある。そのなかで「一生に一度は見てみたいもの」を思い浮かべていったとき「オーロラ」をあげる人は少なくないだろう。神秘的という形容が最もふさわしい、その姿は遙か昔から人々を魅了してきた。ピースボートクルーズでも高い人気を誇る極北のオーロラクルーズは、船だからこそ見ることのできる光のシンフォニーを堪能できる。



GLOBAL VOYAGE  
2022 Summer

CONTENTS

特集

一生に一度はオーロラを見てみたい  
極北のオーロラクルーズ ..... P3

漆黒の夜空に出現する  
光のカーテンとの出会い ..... P4

海に反射し星を包む  
船上で体感するオーロラは  
我を忘れるほどの光景 ..... P6

オーロラツアーを  
盛り上げる船内企画 ..... P8

乗船者インタビュー ..... P10

カメラマンインタビュー ..... P11

第二特集

夏にひんやり  
世界のクールデザート ..... P12

水先案内人インタビュー  
古今亭菊千代さん ..... P14

ブラジル最大の貿易港  
[サントス] ..... P16

PEACE BOAT ACTIVITIES ..... P18

表紙の写真  
色、形、大きさ、そして動き  
も同じものはない。一期一  
会のオーロラとの出会い。

Aurora Cruise

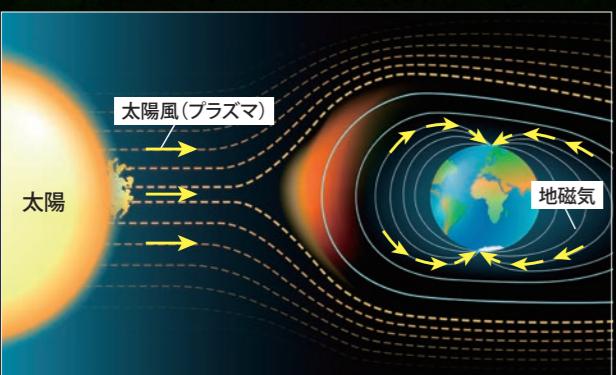
## 漆黒の夜空に出現する光のカーテンとの出会い

北緯60度から70度。北極圏に手が届くエリアの夜空を彩るのがオーロラだ。神出鬼没の自然現象であり、いつ見ることができるのか、誰にもわからない。夜空いっぱいに繰り広げられる「女神」の舞いは、言葉を失うほどに圧倒される体験だ。船上にて移動しながら見るオーロラは、より臨場感をもって迫ってくる。神秘と出会える幸運に恵まれれば、その美しさは一生まぶたの裏に焼きつくれる。

「宇宙からの贈り物」といわれるオーロラは、地球上で最も美しい自然現象のひとつである。極北の空のもと、鮮やかなオーロラの舞いに包み込まれるのは唯一無二の圧倒的な体験だ。

オーロラとは、ローマ神話の暁の女神アウロラ(Aurora)に由来している。アウロラは知性の光であると同時に創造性の光でもあり、地球上の生き物に生きる力をもたらすものである。名付け親は諸説あるが、ガリレオ・ガリレイという説もある。学者アリストテレスは「天の裂け目から吹き出す炎」がオーロラであると考えていた。また日本でも日本書紀に「雉(きじ)の尾に似た赤気(せつき)」として記録が残り、鎌倉時代の藤原定家の日記『名月記』にも赤気を見たと記されている。人間の想像を超える事象であるがゆえに、世界各地で神話や伝説が残されているのも興味深い。北欧神話ではオーロラは女神ワルキューレの盾と鎧の輝きを反映したものととらえていて、古代ギリシア人もオーロラに関する多くの神話を残し、太陽の神と月の神が駆け巡るために発生したとされている。

そんなオーロラがどのようにして生まれるのか科学的に解説されている現在でもなお、その姿を目にしたものはこの世のものとは思えない神秘や驚異を覚え、超自然的な存在として感じてしまう。通常オーロラを自分の目で直接見ようと思えば、カナダやアラスカ、もしくはフィンランドなどまで飛行機を使って訪れる事になる。そのため、ピースボートクルーズのように大型客船で世界一周の航海中に鑑賞しようとする試みは世界的にもとても珍しい。時代を越えて人の心を動かしてきたオーロラとの出会いに胸ふくらませ、極北の地へ、さあ、出かけよう。



オーロラが発生する仕組み  
科学の発達とともにオーロラの発生原理は明らかになっている。地球は大きな磁石と同じで南極はN極、北極はS極になっている。電気をもった粒(電子や陽子)が太陽から飛んでくると、N極やS極に引き寄せられ、空気の粒と当たって白や赤、緑の光を出す。この現象がオーロラである。オーロラの色や形、移動速度もさまざま、光を放ちながら出現する。





アイスランドのレイキヤビクはオーロラ鑑賞ができる首都として有名。



オーロラ鑑賞時には  
温かいスープをご用意

デッキは寒いため、温かいスープがあります。またオーロラツアー期間は「夜型生活」に対応し、ブッフェや居酒屋「波へい」も時間を変更してオープン。温かい飲み物や食べ物をとることができます。



## オーロラツアーを 盛り上げる船内企画

オーロラツアーガはじまる一週間ほど前から、船内ではオーロラにまつわるさまざまな船内企画が催される。船内は「オーロラを楽しもう!」という雰囲気に満ち、全員で盛り上がっていこう、という一体感が生まれる。どのような船内企画があるのか、過去のオーロラツアーや乗船したスタッフに紹介してもらおう。



上野 泰寛

船長やオーロラ水先案内とともに  
オーロラ鑑賞をオーナイズする。

木村 希望

過去のオーロラクルーズにはすべて乗船し、スタッフからは「オーロラ船」という愛称も。開連の船内イベントをプロデュースする。

吉田 岳洋

オーロラ鑑賞チャンスの間にオーロラ船にてオーロライベントをプロデュースする。



オーロラの講座に興味津々

オーロラ水先案内人のアクセルさんをはじめビースポーツスタッフが事前にさまざまな講座を開催。知れば知るほどその魅力に惹かれるのがオーロラの神秘性。



鮮やかな  
特別料理が  
オーロラクルーズを  
盛り上げて  
くれます



オーロラをイメージした  
料理やデザートがテーブルを飾る  
和食の「オーロラ御膳」やコース料理の「オーロラ  
スペシャルディナー」などオーロラにちなんだ料理  
を提供。視覚で楽しめば気分もまた盛り上がる。



オーロラをテーマにした  
ファッションショー



オーロラツアーアの定番となっている  
ショー。それぞれのオーロラの表現が  
楽しく、大勢の観客が集まって盛り上  
がる。ご自身でデザインしたオリジナル  
の衣装で登壇する参加者も。

「オーロラベルトに入していく前に、  
船内がオーロラをイメージしたライ  
トやテープなどで華やかに装飾され  
はじめ『いいよオーロラだ』といった  
感じで気分も盛り上がります。  
『オーロラの撮り方』という撮影講座  
は毎回開かれて、多くの方が受講して  
います。スマホでの撮り方も教えてく  
れるので役立つと思いますよ」(吉田)  
「オーロラの撮り方」という撮影講座  
は毎回開かれて、多くの方が受講して  
います。スマホでの撮り方も教えてく  
れるので役立つと思いますよ」(吉田)  
「オーロラの撮り方」という撮影講座  
は毎回開かれて、多くの方が受講して  
います。スマホでの撮り方も教えてく  
れるので役立つと思いますよ」(吉田)

興味深いですね。また思い思いに  
オーロラを表現する「オーロラファッ  
ションショー」も盛り上ります。  
乗船されたら、ぜひ参加してみて  
ください」(上野)

「オーロラは宇宙を感じるものなの  
で、待っている間に「宇宙について語  
ろう」という企画をたて、参加者そ  
れぞれの宇宙観を語りあつたこと  
があります。また記念撮影用に  
『オーロラ顔はめパネル』を製作し  
たこともあります」(木村)

オーロラ水先案内人

アクセル・オスカーソンさん

### ピースボートはオーロラ観測で最もロマンあるクルーズ船

オーロラの出現を前に、大勢の方が興奮し、喜んでくれた姿が忘れられません。ピースボートは「魔法のクルーズ船」です。オーロラを見るうえで最もロマンのあるクルーズ船であることを保証します。また皆さんに船上でお会いできることを楽しみにしています。

オーロラが  
見られるように  
願いを込めて  
つくります

子どもの頃以来につくる「てるてる坊主」

オーロラは、出る予想があったとしても必ず見ることができるものではない。だから「良い天気に恵まれますように」「私たちの前に出現してくれますように」といった思いを込めて「てるてる坊主」が飾られる。

JAPAN GRACE

9



水本さんがはじめて船上で撮影した際の一枚。船とオーロラをセットで撮ればクルーズの記念となるのでおすすめ。

オーロラを観測するクルーズは、そもそも数が少ないうえ、ほとんどが定期航路を持つクルーズです。船が積極的にオーロラを探して移動するクルーズは本当に珍しい。クルーズにカメラマンとして参加できることは非常に貴重な経験だったと思います。

このクルーズの良さのひとつは臨場感だと思います。オーロラは空を移動することも多いのですが、その動きに合わせて船が進路を変える。この、オーロラに向かって突き進んでいく感覚にはすごくワクワクしましたね。

船の先に雲の切れ目が見えた時、「ここを抜けければ必ずオーロラは見える」と半ば確信に近いものを感じていましたが、まさかあれほどの

## Photographer Interview

### 「思わずファインダーから目を離すそんなオーロラは初めてでした」

ピースボートが洋上で出会ったオーロラは、写真家の目にはどう映ったのか。過去にオーロラの撮影経験があり、クルーズカメラマンとして船旅に同行した写真家・水本俊也さんに話を伺った。



水本俊也 MIZUMOTO Shunya

写真家  
1972年生まれ 烏取県出身、横浜市在住  
日本写真家協会(JPS)会員  
キヤノンジュニアフォトグラファーズ講師

オーロラに出会えるとは思つてもいませんでした。完全に予想を上回りましたね。私はこれまでノルウェーやグリーンランドで6回ほどオーロラを撮影してきましたが、間違いなくナンバー1でした。大規模すぎて全貌をカメラのファインダーに收めきれないほどでしたから。また、撮影中に私はカメラのファインダーからあまり目を離さないのですが、今回は思わずカメラから目を離して、自分の目で見るオーロラの余韻を楽しんでしましたね。

もつといろんなシチュエーションで船から見るオーロラを撮影したいですね。実は次回のクルーズにもぜひカメラマンとして参加させてほしい、とスタッフの方には伝えていましたが、まさかあれほどの

### 水本俊也のオーロラ撮影ワンポイントアドバイス

ここが  
ポイント!

①感度: 3,200~6,400に設定。

②手ブレ対策: 三脚を使用。(なければ落ち着いてシャッターを切ればOK!)

ここに  
注意!

①船の一部を使ってカメラを固定するのはNG! 船のエンジンの振動でかえって大きくブレてしまします。

②自分の目でも見る! ファインダーを通して見るのとは違う感動を味わってください。



## Passenger Interview

過去のオーロラツアーで素晴らしいオーロラと巡り合うことができた、泉さんご夫妻。「生忘れられない素晴らしい思い出になつた」、その体験を紹介してもらつた。



英伸さんが実際にレイキヤビク沖で船上から撮影した一枚

泉 英伸さん・千栄子さん

第81回クルーズに定年退職を機に参加。その後、第102回クルーズにも乗船し、長年の夢だった南半球と北半球それぞれのコースで世界一周クルーズを体験。



「オーロラをぜひ一度見てみたい」という思いでピースボートクルーズに参加した泉さんご夫妻。オーロラベルトに入った一週間は昼夜逆転の生活リズムにして、できるだけ夜は起きて、オーロラの出現を待つたそうだ。序盤から幸運に恵まれてオーロラを見ることができたが「何といつても素晴らしいかったのは五日目のオーロラでした」とのこと。その日、早い時間からオーロラ出現の船内放送が響くなか、友人たちとデッキにいた千栄子さん。「最初は遠くの方で白く現れたオーロラが段々近づきながら色を変え、ついに頭上にきました。黄色や紫のオーロラがまるでカーテンが降りてくるように踊る姿に圧倒されました。みんなで『見たわねー!』『出たねー!』と興奮して喜び合いました。

別の場所で観測していた英伸さん。「それはもう、ザ・オーロラ、というのを見た感じでした。日頃の行いが良かったのでしよう(笑)。その日は断続的に現れましたが、色が変わった姿が変わり、見飽きることがあります。せんでも「生忘れない」「まさに神秘の世界」と振り返り、「機会があったらぜひ参加してください」と語った。

### オーロラ鑑賞防寒グッズは船内ショップで!

オーロラツアー時のデッキは極寒のスキー場にいるようなもの。防寒具は必需品だ。風を通さないアウターをはじめ、手袋、撮影用に指先の開いた手袋、マフラー、耳当て、カイロもあった方がいい。ピースボートクルーズでは船内ショップで有名アウトドアブランド商品を販売予定。



※防寒グッズは船内ショップにて各種取り揃えています。

# 夏にひんやり 世界のクールデザート



雪花氷  
(シェーファービン)  
Taiwanese shaved ice  
かき氷の上に甘くてフレッシュなフルーツがたっぷり盛られて、さらにバニラアイスや練乳などをのせて食べる。



ソフトイース  
Softis  
ノルウェー人が愛するソフトクリーム。日本のものよりも少し重厚な口当たり。トッピングを思い思いに楽しむ。



スパゲッティアイス  
Spaghetti eis  
アイス好きのドイツ国民に愛され続ける名物。名前の通りスパゲッティの外見をしていたイチゴソースがかかっている。

ゲッターシュパイゼ  
Gotterspeise  
「神々の食べもの」という意味をもつカラフルなゼリー。カスタードクリームやホイップクリームをかけて食べる。



シェイブアイス  
Shave ice  
ハワイの大人気スイーツ。きめ細かくふわふわした氷にかけられる、色鮮やかなシロップが特徴。



ホーキーポーキー<sup>ニュージーランド</sup>  
Hokey Pokey  
さとうきびエキスで作られたゴルデンシロップを用い、キャラメルを混ぜこんだアイスクリーム。甘さとパリパリとした食感が楽しめる。



ドンドウルマ  
Dondurma  
トルコ語で「凍らせたもの」の意味があり、粘り気があり伸びるのが特徴。羊乳や植物の根を乾燥させたものから作る。



ファルーダ  
Falooda  
ローズシロップ、バジルシード、ゼリー、タピオカなどを混ぜミルクやアイスクリームを注いで作る。



カッサーータ・シチリアーナ  
Cassata siciliana  
緑色のマジパンでスポンジケーキ、リコッタチーズを包み、フルーツの砂糖漬けで飾り付けられているスイーツ。



パレタ  
Paletas  
メキシコの棒付きアイス。フルーツベースのシャーベット系と牛乳ベースのクリーム系がありフレーバーは多彩。



クルフィ  
Kulfi  
16世紀からあったといわれる、牛乳を煮詰めて作る氷菓。泡立てずに作るため固くて溶けにくく濃厚な味わい。



ブーザ  
Booza  
植物の粉末と食用ガムでとろみをつけたトルコアイスのように伸びる粘り気が特徴。ピスタチオをまぶして食べる。



ピーチメルバ  
Peach Melba  
砂糖で甘く煮た桃にバニラアイスとシロップを添えラズベリーソースをかけた、グラデーションが美しいデザート。



ハロハロ  
Halo-halo  
かき氷とパフェをミックスさせたようなスイーツ。ウベ(ヤムイモの一種)の鮮やかな紫色のアイスクリームが特徴。



チエンドル  
Cendol  
米粉やタピオカなどを原料にした、ゼリーのような食感が特徴。発色のいい緑色はパンダンリーフという葉の色。



ルクマアイスクリーム  
Lucuma ice cream  
三大栄養素をはじめ、鉄や食物繊維などが豊富な栄養満点のダイエットフルーツ「ルクマ」を用いたアイスクリーム。



# 「宝もの」を見つける」とができる ピースボートクルーズ

落語家 古今亭菊千代

これまでピースボートクルーズに水先案内人として数多く乗船されている落語家の古今亭菊千代さん。ピースボートクルーズの思い出や楽しみ方、ご自身のワークショップなどについて伺った。

## ブラジルで落語を それが初乗船

—菊千代師匠とピースボートクルーズの出会いは何年前ですか。

2000年にさまざまな事情で日本からブラジルに移住した方々の前で落語を披露しませんか、というお誘いを受けたのが最初です。地球の反対側まで行き落語ができるなんて光榮だと思いましてお受けしました。その前にショートクルーズに乗船していましたが地球一周としてはそのときが初めてでした。ブラジルでは大勢の方に落語を聞いていただき、終演後にご高

齢の女性が寄ってきて「今まで移民として苦労したけれど生きてて良かった」と言つてもらいました。

その苦労が偲ばれて私も涙がブワッと出て一緒に泣いたことを覚えてます。その後は定期的に乗船するようになり、20年間でショートクルーズも含めると30回ほど乗船しています。

## 印象に残っている寄港地はどこですか。

ブラジルは何回か訪れてますが、やはり日系の方の移民当時の話は胸に刻まれます。アルゼンチンも落語を披露した国なので印象に残っています。またパナマやグアテマラの先住民

族の方が作ったカラフルな刺繡が好きでお土産としても買いました。お世話になった方も多いので南米は特に思い入れが強いですね。

## ピースボートに何度も乗船したいと いいただき毎回楽しみ

—弟子たちの晴れ舞台は  
かけがえのない体験に



## 毎回、乗船者からお弟子さんを募 集して「ワークショップを開いています

—毎回、乗船者からお弟子さんを募集して「ワークショップを開いていますね。どんな内容なのですか。

—毎回、乗船者からお弟子さんを募集して「ワークショップを開いていますね。どんな内容なのですか。

—ピースボートクルーズの魅力はどんなどうにあると感じていますか。

たくさんありますけど、ひとつは他の船旅のように観光もできますが、洋上で生の落語を聴けるのはとても貴重だ。

## 世代、立場を超えた 交流が一番の魅力

海外在住のミュージシャンをはじめ多くの方との縁をいただき、下船後もお付き合いは続いています。そういうさまざまな魅力を持つ方々と一緒に旅ができるのは素晴らしいんですね。

現地の人々とふれあつたり、さまざまな施設などを訪れたりする交流プログラムが特徴だと思います。普通なら会えない人、行けない場所にピースボートならではのネットワークでナビゲートしてもらえますからね。また船内では、世話を超えた交流ができることがあります。高齢の方は自分の子どもや孫の世代の人たちとお話しして「今どきの若者はこんなことを考えているのか」とか、若い人は逆に「こんな素敵なお父さんがいるんだ」といったことを感じられる。世代、立場を超えた交流ができるのはピースボートだけだと思います。

## 今後、行ってみたいところはありますか。

オーロラを見たことがないので、ぜひ見に行きたいです。船で行けば、暖かい船内にいて出現したらラッキに出ればいいと聞いたことがありますので、寒がりの私も大丈夫でしょう。他にはアラスカも行つたことがないので機会があれば出かけたいですね。

## 「宝もの」が見つかる クルーズへいざ

—これから乗船予定の方へメッセージをお願いします。



洋上で生の落語を聴けるのはとても貴重だ。



「弟子」たちの発表会にて。大勢の観客を前に練習の成果を出しきって、みんなで大きな達成感を味わう。



時には南京玉すだれを教えることも。



待ちください。  
お楽しみに出航の日をお



族の方が作ったカラフルな刺繡が好きでお土産としても買いました。お世話になった方も多いので南米は特に思い入れが強いですね。

—ピースボートに何度も乗船したいと  
いいただき毎回楽しみ

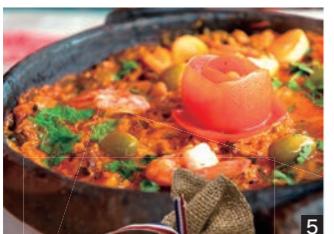
## Profile 古今亭菊千代 (落語家)

昭和59年、古今亭円菊門下に入門、平成5年に先輩の三遊亭歌る多師と共に江戸では初となる女性真打に昇進。以降、本来の寄席やホール、各落語会の出演のほか、手話と一緒に楽しむ落語、朝鮮・韓国語での落語、新作、自作品、エッセイ、また、南米など海外の方々の前でも多数公演。





自く長い砂浜が広がる「サントスピーチ」とマンション群が建つ街並み。



1:サンツォ湾と旧市街を一望できる「モンチ・セハーの丘」。2:1908年の781人から始まったブラジル日本移民の原点ともいえるサンツに1998年に建立された記念碑。3:コーヒー器具の歴史、コーヒー栽培の工具などが展示される「旧コーヒー取引所」。4:旧市街地の観光用に走るトラム(路面電車)。5:サンツで楽しみたいグルメのひとつ「シーフードシチュー」。6:カフェなどで名産のコーヒー豆を購入できる。

# ブラジル最大の貿易港

〔サントス〕



Santos, Brazil



サンパウロ州にある港湾都市サントス。ピースポートクルーズとして初寄港になる。コーヒーの輸出港として発展してきた歴史があり、石畳の古い街並みも風情がある。また美しい景色が広がるブラジル屈指の観光地であり、年中海水浴が楽しめるビーチは大勢の人で賑わっている。

コーヒーの輸出港として知られ、国内のコーヒーの大半がここから世界中へ届けられている。そんなコーヒーで繁栄してきた歴史を知るには「旧コーヒー取引所（コーヒー博物館）」がうってつけだ。取引所としては1950年代に閉鎖されたが、1998年に博物館として再びドーム屋根の建物だから旧市街地タートをきつた。石造りの重厚なドーム屋根の建物だから旧市街地ですぐに見つけることができるだろう。コーヒー関連の展示物のほか、バリスタやラテアートの講座があり、カフェでは博物館らしく豊富なメニューが揃っていて珍しいコーヒーを楽しむこともできるし、豆の販売も行っているのでお土産におすすめだ。

台から素晴らしい景色を望んでみよう。コンテナ船が行き交うサントス港が入り組んだ湾のなかに位置していることがわかる。展望台から見えるサッカースタジアムは世界的に有名な「サントス・サッカーラブ」のホームグラウンド。サッカーの神様ペレが活躍したチームとしても知られ、グッズ等も販売されており、世界中のサッカーファンが立ち寄るスポットだ。

サントスのビーチは、緑が多く美しい。4マイルにわたって延びる海辺の樹木によつて道路と隔てられ、この緑の帯は遊歩道になつてゐる。庭園や水族館などがあり、散策しながら観光するには気持ちのよいエリアで、料理屋台も出ていて軽食をとることもできる。またサントスは日本人の移民が初めて上陸した土地であり、1908年から戦前戦後を通じ65年間で約25万人が移民となつた。1998年には日系移民90年記念碑が建立され、現在その碑はビーチ沿いにあるエミサリオ・ススマリーノ公園に移転されている。



長く続くビーチでは黄金色の夕日が美しい。



コンテナ船が行き交うブラジル最大の貿易港サントス。

ブラジルはコーヒーの生産量世界一位であり、消費量も世界二位。サンパウロ州もコーヒー産業が盛んだ。

「モンチ・セハーの丘」は市内を一望できる小高い丘で、ケーブルカーで上ることができる。斜面をゆっくり進み4分ほどで頂上に着いたら、展望



# 船上百景

[朝の時間]



朝日を浴びながらデッキをウォーキングするのも最高に気持ちがいい。



老若男女にヨガは人気。体の深いところに作用する。



高いエクササイズ効果が期待できるノルディックウォーキング。

## 体も頭も気持ち良く目覚める 一日の始まり

ピースボートクルーズの朝は、水平線から大きく美しく昇つてくる朝日の訪れから始まる。360度見渡す限りの大海上に囲まれた、非常に清々しく気持ちの良い朝。デッキのあちらこちらで、専門講師による数々の健康プログラムがスタートする。ノルディックウォーキングで歩いている人たち。ヨガで心身を整えている人たち。優雅な動きで太極拳に取り組む人たちもいる。乗船前から続いている場合もあるが、むしろ「乗船後に新しい習慣として始めた」というケースの方が多い。続けられる秘訣は、やはり船上ならではの爽快感。今日のはじまりを太陽が祝つているようなデッキには、ちょっと特別な空気が流れているよう。体も頭もすつきり目覚めた後の朝食はまた格別。さあ今日も素敵な一日のはじまりだ。

沖縄では戦前だけでも7万人を超える人々が海を渡り、想像を絶する過酷な状況を生き抜きます。その後、戦後焼け野原となつた沖縄にいち早く救援物資を送り、苦しむ沖縄の人々を救つてきたのは、移住者の方々の「ちむぐる」でした。

日本から最初の移民船が出航して100年以上の歳月が流れましたが、現代を航海するピースボートも、時をこえ海をこえて「ちむぐる」をまなび、はぐくみ、とどける旅をつくりたいと思います。(N.I.)



“ちむぐる”沖縄の言葉で「心に宿る深い想い、真心」という意味があります。今年、本土復帰50年を迎えた沖縄。そんな沖縄の対蹠地（たいせきち）という地球のちょうど真裏に位置するのは、イグアスの滝があるブラジルのパラナ州です。実はこの州、沖縄や日本のほかにもウクライナと強いつながりがあります。1896年にウクライナからの入植が始まり、1908年には最初の日系移民781名（うち沖縄県民325名）を乗せた笠戸丸がサントス港に入港します。現在、同州の内陸部にはウクライナ系住民が人口の8割を占める町もあります。ロシアによる軍事侵攻で心を痛めている人がブラジルにも多くいることを意味します。

ピースボートクルーズでは、笠戸丸などの移民船と同じ航路でシンガポールからアフリカの喜望峰を経由してサントスを訪れます。そんな2つの港近くには、移民の歴史を説明展示している資料館がありますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

日本から最初の移民船が出航して100年以上の歳月が流れましたが、現代を航海するピースボートも、時をこえ海をこえて「ちむぐる」をまなび、はぐくみ、とどける旅をつくりたいと思います。(N.I.)